

教育・研究業績書

講座名 臨床検査医学		
＜教員の紹介＞		
教授 家入 蒼生夫 准教授 菱沼 昭 准教授 沼部 敦司 准教授 吉田 敦		
I 教育活動		
教育実践上の主な業績	年月	概要
① 教育内容・方法の工夫（授業評価を含む）		
① 学生の授業の評価と改善	2004年5月～現在	学生の授業は、3年臨床検査医学、4年臨床検査医学、6年内分泌代謝学を担当している。学生の授業の評価を参考に、改善点を検討、実践している。特に、学生が受身にならず、むしろ参加させるようにしている。
② 学生実習（BSL）の改善	2004年5月～現在	5年生にBSLを実施している。実習の最終日には学生各自に実習の良かった点、悪かった点を直接聞き改善点を評価している。また、見学等におわらないよう、実際の症例を提示したり、学生自らの検体を用いて、検査を体験させるなどし、課題をあたえ、自己解決させるように努めている。
② 作成した教科書、教材、参考書		
① BSL ノートの作成	2004年5月～現在	1週間で課題となるBSLノートを作成している。また、毎週、検討する症例を変えるなどして、毎週更新している
② 臨床検査医学関連の教科書の執筆	2004年5月～現在	標準臨床検査医学 第3版、医学書院、東京(2006)を分担執筆している。
③ 臨床化学検査関連の教科書を執筆	2004年5月～現在	臨床検査学講座 臨床化学検査第2版、医師薬出版(2003年)を分担執筆している。
④ 「3年生臨床検査医学、4年生検査医学（腎機能検査、尿検査、動脈血ガス、呼吸機能検査、心電図、脈波）」の教材作成	2004年5月～現在	臨床検査医学、検査医学の担当領域では、要約と解説、理解のための問題をあわせた教材を作成。毎回の授業時に配布し、学生の理解と学習の一助としている。

**③ 教育方法・教育実践に関する発表、講演・その他教育活動上特記すべき事項**

<p>① OSCE</p> <p>② CBT 共用試験の問題作成</p> <p>③ BSL の総合オリエンテーション</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>OSCE に評価者として参加している。</p> <p>CBT 共用試験の問題を作成し、良問の出し方について経験を積んでいる。</p> <p>BSL の総合オリエンテーションとして感染対策について講演している。</p>
<p>④ 医学部1年生の Early Exposure</p>	<p>2004年5月～現在</p>	<p>医学部へ入学間もない1年生へ医学へのモチベーションを高めるプログラムに参加し、検査部内の業務、医師との係わり合い、病院内における機能などを解説している。</p>
<p>⑤ 3 学年 PBL (問題解決型) テュートリアル教育テューターとして参加</p>	<p>2005年9月～現在</p>	<p>自己主導型学習、さらに生涯学習への道筋を習得させるよう努力している。</p>
<p>⑥ 共用試験医学系 CBT ブラッシュアップ専門部会に委員として参加</p>	<p>2007年8月</p>	<p>質の高い CBT 問題の作成を習得し、学内試験問題作成にも応用。</p>

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
臨床検査医学	教授	家入 蒼生夫	大学院の研究指導担当資格 有
Ⅱ 学会等および社会における主な活動			
2004年5月以前～現在	日本内科学会会員		
2004年5月以前～現在	日本内分泌学会員		
2004年5月以前 ～2005年7月	日本内分泌学会，評議員		
2004年5月以前～現在	日本内分泌学会，代議員		
2004年5月以前～現在	日本臨床検査標準協議会，評議員（日本内分泌学会選出）		
2004年5月以前～現在	日本神経内分泌学会員		
2004年5月以前～現在	日本甲状腺学会員		
2004年5月以前～現在	日本甲状腺学会，評議員		
2004年5月以前～現在	日本甲状腺学会，理事		
2004年5月以前～現在	日本糖尿病学会員		
2004年5月以前～現在	日本臨床検査医学会員，評議員		
2004年5月以前～現在	日本臨床検査自動化学会員，評議員		
2004年5月以前～現在	日本臨床化学会員，評議員		
2004年5月以前～現在	日本臨床微生物学会員		
2004年5月以前～現在	インフェクションコンドクトールドクター（ICD）		
2004年5月以前～現在	日本腎臓像学会員		
2004年5月以前～現在	Endocrine Society Member		
2004年5月以前～現在	American Association of Clinical Chemistry Member		
2004年5月以前～現在	栃木県，および宇都宮市精度管理専門委員		
2004年5月以前～現在	日本アイソトープ協会インビトロテスト専門委員		
2004年6月～現在	日本アイソトープ協会インビトロテスト専門委員会，委員長		
2005年度，2006年度	日本内科学会認定医試験問題作成委員		
2005年9月～現在	日本感染症学会員		
2006年6月～現在	日本アイソトープ協会医学・薬学部会常任委員		
2006年10月～現在	日本内分泌病理学会員		
2008年11月	第51回日本甲状腺学会（宇都宮市）会長		

### Ⅲ 研究活動

#### 【学位論文】

#### 【著 書】

和文

1. 家入蒼生夫：甲状腺疾患の検査所見と鑑別診断. 最新医学（別冊）甲状腺疾患，森昌朋，編，pp119-131，2004.
2. 家入蒼生夫：甲状腺刺激ホルモン（TSH）. 古沢新平，金山正明，橋本博史編，臨床検査診断マニュアルpp568-569，2005.
3. 家入蒼生夫：甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン試験（TRH試験）. 古沢新平，金山正明，橋本博史編，臨床検査診断マニュアルpp570-571，2005.
4. 家入蒼生夫：第Ⅲ章 化学分析法各論 7. ホルモン. 臨床検査学講座第2版，臨床化学検査，浦山修，著者代表，pp291-320，医師薬出版，2006.
5. 家入蒼生夫：第Ⅳ章 臓器機能と病態 4. 内分泌機能. 臨床検査学講座第2版，臨床化学検査，浦山修，著者代表，pp376-384，医師薬出版，2006.
6. 家入蒼生夫、菱沼 昭：II検体検査 生化学検査 B. 甲状腺 C. 副甲状腺（付 ビタミンD、カルシトニン）. 猪狩 淳、中原一彦 編，標準臨床検査医学 第3版 医学書院、pp109-121，2006.
7. 菱沼 昭，家入蒼生夫：成長ホルモン（GH），IGF-1（インスリン様成長因子-1，ソマトメジンC），IGFBP-3（インスリン様成長因子結合蛋白3型）； ACTH； LH・FSH；プロラクチン； 基準値と異常値の間-その判定と対策-改訂6版，pp266-278，河合忠，編，中外医学社，2006.
8. 家入蒼生夫，沼部敦司：ADH；レニン・アンジオテンシン； アルドステロン； コルチゾール・コルチコステロン； 17-PHCS；尿中17-KSと分画. 基準値と異常値の間-その判定と対策-改訂6版，pp282-327，河合忠，編，中外医学社，2006.
9. 松田隆子，家入蒼生夫：ナトリウム利尿ペプチド（ANP，BNP）. 基準値と異常値の間-その判定と対策-改訂6版，pp328-331，河合忠，編，中外医学社，2006.
10. 家入蒼生夫，沼部敦司：アンドロステロン，アンドロステンジオン. 基準値と異常値の間-その判定と対策-改訂6版，pp332-335，河合忠，編，中外医学社，2006.
11. 家入蒼生夫：遊離サイロキシシン； 遊離トリヨードサイロニン； 総サイロキシシン； 総トリヨードサイロニン； T3 摂取率； サイロキシシン結合グロブリン； サイログロブリン. 桜林郁之介，熊坂一成，監修 臨床検査項目辞典，医師薬出版，pp 379-384，2008.

#### 【原 著】

欧文

1. Hishinuma A, Ohmika N, Namatame T, Ieiri T: TTF-2 stimulates expression of 17 genes, including one novel thyroid-specific gene which might be involved in thyroid development. Mol Cell Endocrinol 221: 33-46, 2004.
2. Hishinuma A, Fukata S, Nishiyama S, Nishi Y, Oh-Ishi M, Murata Y, Ohyama Y, Matsuura N, Kasai K, Harada S, Kitanaka S, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Uruno T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A, Ieiri T: Halotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in Japan. J Clin Endocrinol Metab 91:3100-3104, 2006.

3. Hishinuma A, Fukata S, Nishiyama S, Nishi Y, Oh-Ishi M, Murata Y, Ohyama Y, Matsuura N, Kasai K, Harada S, Kitanaka S, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Uruno T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A, Ieiri T : Haplotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in Japan J Clin Endocrinol Metab 91:3100-3104, 2006.
4. Hishinuma A, Fukata S, Ieiri T : Emerging new features of patients with thyroglobulin mutations, including increased incidence of thyroid cancer. Hot Thyroidology (European Thyroid Association) August, No2:1-10, 2007.
5. Hishinuma A, Tsunekawa K, Seki K, Mizuno Y, Fujisawa H, Imai T, Miura Y, Nagasaka T, Yamada C, Ieiri T, Murakami M, Murata Y : Thyroglobulin gene mutations producing defective intracellular transport of thyroglobulin are associated with increased thyroïdal type 2 iodothyronine deiodinase activity. J Clin Endocrinol Metab 92:1451-1457, 2007.
6. Ohye H, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Nishihara E, Ito M, Kubota S, Amino N, Ieiri T, Kuma K, Miyauchi A : A novel homozygous missense mutation of the dual oxidase 2 (DUOX2) gene in an adult patient with large goiter. Thyroid 10: 561-566, 2008.

#### 【症例報告】

和文

1. 深田修司、菱沼 昭、窪田純久、大江秀美、佐々木一郎、西原永潤、網野信行、家入蒼生夫、隈 寛二、宮内 昭 : 先天性甲状腺機能亢進症の一例. 日本内分泌学会雑誌 81(Suppl.):45-46, 2005.

#### 【総 説】

和文

1. 家入蒼生夫、菱沼 昭、竹越一博 : 特集 臨床検査 : 現状と展望 トピックス II. 各論-実地医家に必要な新しい検査と重要な検査項目- 6. 内分泌・代謝疾患. 日本内科学会雑誌 97:2983-2990, 2008.

#### 【そ の 他】

欧文

1. Hishinuma A, Fukata S, Ieiri T : Emerging new features of patients with thyroglobulin mutations, including increased incidence of thyroid cancer. Hot Thyroidology (European Thyroid Association) August, No2:1-10, 2007.

和文

1. 家入蒼生夫 : 更年期と甲状腺ホルモン. 臨床病理レビュー特集第 131 号 ” 女の一生と臨床検査” -更年期をめぐる身体の変化とその臨床- pp98-104, 2004.
2. 家入蒼生夫 : 妊娠に伴う甲状腺機能の変化. 内分泌・糖尿病科 19: 583-591, 2004.
3. 家入蒼生夫 : サイロキシン結合グロブリン (TBG), T3 摂取率 (T3U), サイロキシン結合能 (TBC) . 日本臨牀 63 (増刊号 8) 広範囲血液・尿化学検査 免疫学的検査, 第 6 版, 272-275, 2005.

4. 家入蒼生夫：総トリヨードサイロニン (TT3), 遊離トリヨードサイロニン (FT3), リバースT3 (rT3) . 日本臨床 63 (増刊号 8) 広範囲血液・尿 化学検査 免疫学的検査, 第 6 版, 258-262, 2005.
5. 家入蒼生夫：TSH (甲状腺刺激ホルモン) . Medicina 42(12), 増刊号, これだけは知っておきたい検査のポイント, 第 7 集, pp313-315, 2005.
6. 家入蒼生夫：Tg(サイログロブリン), TBG (サイロキシン結合グロブリン) .Medicina 42, 増刊号, これだけは知っておきたい検査のポイント, 第 7 集, pp326-328, 2005.
7. 菱沼 昭、深田修司、宮内 昭、家入蒼生夫：サイログロブリン遺伝子の異常. 臨床内分泌学 3 - 甲状腺・副甲状腺・骨内分泌代謝系-. 日本臨床社 63 巻増刊号:31-35, 2005.
8. 家入蒼生夫：ヨードチロシン縮合障害. 日本臨床別冊, 内分泌症候群 (第 2 版) pp367-370, 2006.
9. 家入蒼生夫：異所性甲状腺. 日本臨床別冊, 内分泌症候群 (第 2 版) pp539-542, 2006.
10. 家入蒼生夫 (委員長), 竹岡啓子 (副委員長), 池田斉, 市原清志, 小田桐恵美, 亀子光明, 桑克彦, 紫芝良昌, 武田京子, 對馬敏夫：第 27 回イムノアッセイ検査 全国コントロールサーベイ (2005 年) 成績報告要旨 (2005 年) RADIOISOTOPES 55, 599-649, 2006.
11. 家入蒼生夫 (委員長), 竹岡啓子 (副委員長), 池田斉, 市原清志, 小田桐恵美, 亀子光明, 桑克彦, 紫芝良昌, 武田京子, 對馬敏夫：. 27 回イムノアッセイ検査 全国コントロールサーベイ (2005 年) 成績報告書. (社) 日本アイソトープ協会 医学・薬学部会インビトロテスト専門委員会 イムノアッセイ研究会, 2006.
12. (社) 日本アイソトープ協会, 医学・薬学部会インビトロテスト専門委員会, 委員長, イムノアッセイ研究会代表幹事 家入蒼生夫： 第 28 回イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ (2006 年) 成績, 2007.
13. 家入蒼生夫： 橋本病でみられる自己抗体とその意義, 橋本病. 内分泌・糖尿病科 25, 151-158, 2007.
14. (社) 日本アイソトープ協会, 医学・薬学部会インビトロテスト専門委員会, 委員長, イムノアッセイ研究会代表幹事 家入蒼生夫： 第 29 回イムノアッセイ検査全国コントロールサーベイ (2008 年) 成績, 2008.
15. 菱沼 昭、家入蒼生夫：サイログロブリン遺伝子異常と甲状腺腫. 臨床検査 増刊号 ホルモンの病態異常と臨床検査 52:1183, 2008.
16. 家入蒼生夫, 堀内裕次： ホルモンの測定シリーズ・1 下垂体系：1 成長ホルモン (GH), プロラクチン (PRL) . 検査と技術 37: 331-337, 2009.

教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
臨床検査医学	准教授	菱沼 昭	大学院の研究指導担当資格 有
<b>II 学会等および社会における主な活動</b>			
1983年～現在	Society for Neuroscience (USA) 会員		
1986年～現在	Sigma Xi (USA) 会員		
1987年～現在	日本糖尿病学会員		
1988年～現在	日本内科学会員		
1989年～現在	New York Academy of Science (USA) 会員		
1990年～現在	日本内分泌学会員		
1990年～現在	日本甲状腺学会員		
1994年～現在	日本臨床病理学会 (2000年に日本臨床検査医学会と改称) 会員		
1994年～現在	日本遺伝子診療学会員		
1997年～現在	日本臨床化学会員		
1998年～現在	日本甲状腺学会評議員		
1999年～現在	日本臨床検査自動化学会員		
1999年～現在	American Diabetes Association 会員		
2000年～現在	日本人類遺伝学会員		
2000年～現在	日本臨床遺伝学会 (2001年に日本遺伝カウンセリング学会と改称) 員		
2002年～現在	日本小児内分泌学会員		
2001年～現在	日本内分泌学会評議員		
2001年～現在	日本臨床検査医学会評議員		
2004年～現在	The Endocrine Society (USA) 会員		
2007年～現在	日本感染症学会員		
<b>III 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>菱沼 昭</u> : 2 甲状腺 a サイロキシン (T4)、遊離サイロキシン (FT4)、トリヨードサイロニン (T3)、遊離トリヨードサイロニン (FT3) b トリヨードサイロニン摂取率 (T3U) c サイロキシン結合グロブリン (TBG) d サイログロブリン (TG). 古澤新平、金山正明、橋本博史 編, 臨床検査診断マニュアル 改定第 2 版永井書店、pp584-591, 2005.			
2. <u>菱沼 昭</u> 、家入蒼生夫 : IX. ホルモン・生理活性物質検査 2. 成長ホルモン (GH)、IGF-1 (インスリン様成長因子-1、ソマトメジン C)、IGFBP-3 (インスリン様成長因子結合タンパク 3 型). 河合 忠 編, 基準値と異常値の間一その判定と対策一 改定 6 版 中外医学社、pp266-268, 2006.			
3. 家入蒼生夫、 <u>菱沼 昭</u> : II 検体検査 生化学検査 B. 甲状腺 C. 副甲状腺 (付 ビタミン D、カルシトニン) . 猪狩 淳、中原一彦 編, 標準臨床検査医学 第 3 版 医学書院、pp109-121, 2006.			

4. 菱沼 昭 : 先天性甲状腺疾患. 田上哲也、西川光重、伊藤公一、成瀬光栄 編, 甲状腺疾患診療マニュアル 診断と治療社、pp82-83, 2009.
5. 菱沼 昭 : 小児Basedow病. 田上哲也、西川光重、伊藤公一、成瀬光栄 編, 甲状腺疾患診療マニュアル 診断と治療社、pp84-85, 2009.

#### 【原 著】

欧文

1. Baryshev M, Sargsyan E, Wallin G, Lejnieks A, Furudate S-I, Hishinuma A, Mkrtchian S : Unfolded protein response is involved in the pathology of human congenital hypothyroid goiter and rat non-goitrous congenital hypothyroidism. *J Mol Endocrinol* 32:903-20, 2004.
2. Hishinuma A, Ohmika N, Namatame T, Ieiri T : TTF-2 stimulates expression of 17 genes, including one novel thyroid-specific gene which might be involved in thyroid development. *Mol Cell Endocrinol* 221:33-46, 2004.
3. Nishiyama S, Mikeda T, Okada T, Nakamura K, Kotani T, Hishinuma A : Transient hypothyroidism or persistent hyperthyrotropinemia in neonates born to mothers with excessive iodine intake. *Thyroid* 14:1077-83, 2004.
4. Shibayama K, Ohyama Y, Hishinuma A, Yokota Y, Kazahari K, Kazahari M, Ieiri T, Matsuura N : Subclinical hypothyroidism caused by a mutation of the thyrotropin receptor gene. *Pediatr Int* 47:105-8, 2005.
5. Hishinuma A, Fukata S, Kakudo K, Murata Y, Ieiri T : High incidence of thyroid cancer in long-standing goiters with thyroglobulin mutations. *Thyroid* 15:1079-1084, 2005.
6. Kitanaka S, Takeda A, Sato U, Miki Y, Hishinuma A, Ieiri T, Igarashi T : A novel compound heterozygous mutation in the thyroglobulin gene resulting in congenital goitrous hypothyroidism with high serum triiodothyronine levels. *J Hum Genet* 51:379-382, 2006.
7. Hishinuma A, Fukata S, Nishiyama S, Nishi Y, Oh-Ishi M, Murata Y, Ohyama Y, Matsuura N, Kasai K, Harada S, Kitanaka S, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Uruno T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A, Ieiri T : Haplotype analysis reveals founder effects of thyroglobulin gene mutations C1058R and C1977S in Japan *J Clin Endocrinol Metab* 91:3100-3104, 2006.
8. Nishihara E, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Ohye H, Ito M, Kubota S, Amino N, Kuma K, Miyauchi A : Sporadic congenital hyperthyroidism due to a germline mutation in the thyrotropin receptor gene (Leu512Gln) in a Japanese patient. *Endocrine J* 53:735-740, 2006.
9. Kanou Y, Hishinuma A, Tsunekawa K, Seki K, Mizuno Y, Fujisawa H, Imai T, Miura Y, Nagasaka T, Yamada C, Ieiri T, Murakami M, Murata Y : Thyroglobulin gene mutations producing defective intracellular transport of thyroglobulin are associated with increased thyroidal type 2 iodothyronine deiodinase activity. *J Clin Endocrinol Metab* 92:1451-1457, 2007.
10. Nishihara E, Nagayama Y, Amino N, Hishinuma A, Takano T, Yoshida H, Kubota S, Fukata S, Kuma K, Miyauchi A : A Novel Thyrotropin Receptor Germline Mutation (Asp617Tyr) Causing Hereditary Hyperthyroidism. *Endocrine J* 54:927-934, 2007.
11. Ohye H, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Nishihara E, Ito M, Kubota S, Amino N, Ieiri T, Kuma K, Miyauchi A : A novel homozygous missense mutation of the dual oxidase 2 (DUOX2) gene in an adult patient with large goiter. *Thyroid* 10: 561-566, 2008.

和文

1. 西山宗六、請園なぎさ、菱沼 昭、田尻淳一、木脇弘二、中村公俊、中村俊郎：小児期軽症クレチン症の成因に  
関与する尿中ヨードの検討. 日本小児科学会雑誌 110:912-9182, 2006.

### 【症例報告】

和文

1. 深田修司、菱沼 昭、窪田純久、大江秀美、佐々木一郎、西原永潤、網野信行、家入蒼生夫、隈 寛二、宮内  
昭：先天性甲状腺機能亢進症の一例. 日本内分泌学会雑誌 81(Suppl.):45-46, 2005.
2. 深田修司、菱沼 昭、窪田純久、隈 寛二、網野信行、宮内 昭：家系内に集積したサイログロブリン(Tg)遺伝  
子異常症. 日本内分泌学会雑誌 84(Suppl.):38-41, 2008.

### 【総 説】

和文

1. 菱沼 昭：サイログロブリン遺伝子異常症. 臨床病理 53:935-941, 2005.
2. 家入蒼生夫、菱沼 昭、竹越一博：特集 臨床検査：現状と展望 トピックス II. 各論一実地医家に必要な新  
しい検査と重要な検査項目ー 6. 内分泌・代謝疾患. 日本内科学会雑誌 97:2983-2990, 2008.

### 【そ の 他】

欧文

1. Hishinuma A, Fukata S, Ieiri T : Emerging new features of patients with thyroglobulin mutations, including  
increased incidence of thyroid cancer. Hot Thyroidology (European Thyroid Association) August, No2:1-10,  
2007.

和文

1. 菱沼 昭：サイログロブリン遺伝子異常症. 内分泌・糖尿病科 20:419-426, 2005.
2. 菱沼 昭：サイログロブリン遺伝子異常症の update. Laboratory and Clinical Practice 23:12-15, 2005.
3. 菱沼 昭、深田修司、宮内 昭、家入蒼生夫：サイログロブリン遺伝子の異常. 臨床内分泌学3ー甲状腺・副甲  
状腺・骨内分泌代謝系一. 日本臨床社 63巻増刊号:31-35, 2005.
4. 菱沼 昭：特集 これだけは知りたい甲状腺疾患の臨床検査 6. 先天性甲状腺疾患の遺伝子検査  
1) サイログロブリン異常症、甲状腺ペルオキシダーゼ異常症. Medical Technology 34:375-378, 2006.
5. 菱沼 昭、深田修司、西 美和、木脇弘二、家入蒼生夫：ヨード有機化障害. 別冊日本臨床 内分泌症候群(第  
2版) 360-362, 2006.
6. 菱沼 昭：特集 甲状腺疾患の新しい考え方 サイログロブリン異常、細胞内輸送障害、癌化. ホルモンと臨床  
54:711-723, 2006.
7. 菱沼 昭、家入蒼生夫：サイログロブリン遺伝子異常と甲状腺腫. 臨床検査 増刊号 ホルモンの病態異常と臨  
床検査 52:1183, 2008.

## 教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
臨床検査医学	准教授	沼部 敦司	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
1985年3月～現在	日本循環器学会員		
1986年11月～現在	日本腎臓学会員		
1987年9月～現在	日本透析医学会員		
1987年9月～現在	日本高血圧学会員		
1987年10月～現在	獨協医学会員		
1988年7月～現在	日本内科学会員		
1990年9月～現在	日本内科学会 認定内科医		
1992年4月～現在	日本腎臓学会 腎臓専門医		
1993年3月～現在	日本循環器学会 循環器専門医		
1995年4月～現在	日本腎臓学会 指導医		
1996年7月～現在	日本内分泌血管代謝学会員		
1998年12月～現在	日本内科学会 認定内科専門医 (現 総合内科専門医)		
2000年4月～現在	日本内分泌学会員		
2002年1月～現在	日本臨床検査医学会員		
2003年5月～現在	日本自動化学会員		
2004年4月～現在	日本高血圧学会評議員		
2008年4月～現在	日本内科学会 救急検討WG(マニュアル作成WG、腎不全、電解質異常担当)		
2008年4月～現在	日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医資格認定試験 セルフトレーニング問題作成委員、病歴要約評価委員		
2009年4月～現在	日本高血圧学会 高血圧専門医		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著 書】			
和文			
1. <u>沼部敦司</u> ：アルドステロン，血漿レニン活性(PRA)，血漿レニン濃度(PRC)．古澤新平，金山正明，橋本博史編，臨床検査診断マニュアル(第2版)．永井書店，東京，pp630-635，2005.			
2. <u>沼部敦司</u> 、家入蒼生夫：ACTH. 河合 忠編，基準値と異常値の間—その判定と対策(第6版)．中外医学社，東京，pp269-272，2006.			
3. <u>沼部敦司</u> 、家入蒼生夫：ADH. 河合 忠編，基準値と異常値の間—その判定と対策(第6版)．中外医学社，東京，pp282-285，2006.			
4. <u>沼部敦司</u> 、家入蒼生夫：レニン・アンジオテンシン，アルドステロン，コルチゾール・コルチコステロン，尿中17-OHCS，尿中17-KSと分画．河合 忠編，基準値と異常値の間—その判定と対策(第6版)．中外医学社，東京，pp306-327，2006.			

5. 沼部敦司、家入蒼生夫：アンドロステロン・アンドロステンジオン。河合 忠編，基準値と異常値の間—その判定と対策(第6版)。中外医学社，東京，pp332-335，2006。
6. 沼部敦司：高齢者高血圧の治療上の注意点，合併症がある場合，腎障害。松岡博昭編，高齢者高血圧。医薬ジャーナル社，大阪，pp64-69，2007。
7. 沼部敦司：II合併症を伴う高血圧の症例と薬物治療の実際，非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)，慢性腎臓病(CKD)，透析。松岡博昭編，高血圧診療マニュアル。フジメディカル出版，大阪，pp115-125，2007。
8. 沼部敦司：II合併症を伴う高血圧の症例と薬物治療の実際，甲状腺機能亢進症，甲状腺機能低下症。松岡博昭編，高血圧診療マニュアル。フジメディカル出版，大阪，pp129-134，2007。
9. 沼部敦司：II合併症を伴う高血圧の症例と薬物治療の実際，痛風・高尿酸血症。松岡博昭編，高血圧診療マニュアル。フジメディカル出版，大阪，pp151-154，2007。
10. 沼部敦司：II合併症を伴う高血圧の症例と薬物治療の実際，膠原病・自己免疫性疾患赤血球增多症，貧血，緑内障。松岡博昭編，高血圧診療マニュアル。フジメディカル出版，大阪，pp161-169，2007。

### 【原 著】

欧文

1. Minami J, Numabe A, Andoh N, Kobayashi N, Horinaka S, Ishimitsu T, Matsuoka H: Comparison of once-daily nifedipine controlled-release with twice-daily nifedipine retard in the treatment of essential hypertension. Br J Clin Pharmacol 57: 632-639, 2004.
2. Kamiyo A, Sugaya T, Hikawa A, Yamanouchi N, Hirata Y, Ishimitsu T, Numabe A, Takagi M, Hayakawa H, Tabei F, Sugimoto T, Mise N, Kimura K: Clinical evaluation of urinary excretion of liver-type fatty acid-binding protein as a marker for the monitoring of chronic kidney disease: a multicenter trial. J Lab Clin Med 145: 125-133, 2005.
3. Ogawa M, Hirawa N, Tsuchida T, Eguchi N, Kawabata Y, Numabe A, Negoro H, Hakamada-Taguchi R, Seiki K, Umemura S, Urade Y, Uehara Y: Urinary excretions of lipocalin-type prostaglandin D2 synthase predict the development of proteinuria and renal injury in OLETF rats. Nephrol Dial Transplant 21: 924-934, 2006.
4. Kamiyo A, Sugaya T, Hikawa A, Yamanouchi M, Hirata Y, Ishimitsu T, Numabe A, Takagi M, Hayakawa H, Tabei F, Sugimoto T, Nise N, Omata M, Kimura K: Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease. Mol Cell Biochem 284: 175-182, 2006.
5. Ishimitsu T, Akashiba A, Kameda T, Takahashi T, Ohta S, Yoshii M, Minami J, Ono H, Numabe A, Matsuoka H: Benazepril slows progression of renal dysfunction in patients with non-diabetic renal disease. Nephrology 12: 294-298, 2007.
6. Ishimitsu T, Kameda T, Akashiba A, Takahashi T, Ohta S, Yoshii M, Minami J, Ono H, Numabe A, Matsuoka H: Efonidipine reduces proteinuria and plasma aldosterone in patients with chronic glomerulonephritis. Hypertens Res 30, 621-626, 2007.

### 【症例報告】

### 【総 説】

## 【その他】

和文

1. 石光俊彦, 太田 智, 稲田英毅, 前田真由美, 吉井正義, 金子 恵, 塚田高樹, 南 順一, 小野英彦, 玉野宏一, 沼部敦司, 松岡博昭: 糖尿病合併高血圧患者の腎障害進展に対するベニジピンおよびエナラプリルの長期投与効果の比較. 血圧 11 : 1243-1247, 2004.
2. 家入蒼生夫, 沼部敦司: カルシトニン, 副甲状腺ホルモン, 副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP). Modern Physician 24 : 810-813, 2004.
3. 石光俊彦, 中野信行, 須藤泰代, 古堅 聡, 赤芝 聖, 亀田智子, 高橋利明, 太田 智, 南 順一, 沼部敦司, 岡村 篤, 松岡博昭: 慢性血液透析患者におけるポリスチレンスルホン酸Na末とポリスチレンスルホン酸Caゼリーの比較. 臨床透析 24 : 1705-1710, 2008.
4. 沼部敦司: 診断力をみかくイメージトレーニング 試験紙法陽性の蛋白尿の3例. 内科 101 : 765-770, 2008.

## 教育・研究業績書

講座名	職名	氏名	
臨床検査医学	准教授	吉田 敦	大学院の研究指導担当資格 有
<b>Ⅱ 学会等および社会における主な活動</b>			
2004年以前～現在	日本内科学会員，日本エイズ学会員，日本化学療法学会員，日本臨床検査医学会員，日本結核病学会員，日本熱帯医学会員，日本環境感染学会員，日本臨床微生物学会員，日本内科学会認定医，日本内科学会内科専門医，Infection Control Doctor		
2004年1月～12月	ドイツ連邦共和国内科医（ドイツ医師会員）		
2005年1月～現在	日本感染症学会感染症専門医		
2005年～現在	英国熱帯医学専門医（Diploma of Tropical Medicine & Hygiene） 国際旅行医学会認定旅行医学専門医（Certificate in Travel Health）（International Society of Travel Medicine, USA） 日本感染症学会評議員		
2006年～現在	日本臨床微生物学会評議員 日本臨床検査自動化学会員 臨床検査専門医 臨床検査専門医会員 日本医真菌学会員 米国 Infectious Diseases Society of America (IDSA)会員 American Society of Microbiology (ASM)会員		
2006年～2008年	国際協力機構（JICA）健康管理センター顧問医（感染症担当）		
2008年～現在	抗菌薬適正使用認定医制度指導医 Harvard Medical School, Brigham and Women's Hospital, Channing Laboratory 研究員		
<b>Ⅲ 研究活動</b>			
【学位論文】			
【著書】			
和文			
1. 吉田 敦：肺炎球菌感染症. 矢崎義雄，菅野健太郎監，改訂第4版 疾患別最新処方，メジカルビュー，pp694-695，2005.			
2. 吉田 敦：ウイルス感染症；クラミジア・リケッチア感染症. 独立行政法人 国立健康・栄養研究所監，人体の構造と機能及び疾病の成り立ち，pp215-223，2005.			
3. 吉田 敦：抗酸菌薬剤感受性試験《結核菌薬剤感受性試験》；ナイアシンテスト；ツベルクリン反応；抗ストレプトリジンO抗体；尿素呼気試験 [13C-ウレアプレステスト]；マイコプラズマ類 寒冷凝集反応 [寒冷赤血球凝集反応]；. 医学生のための基礎臨床技能（ICM）シリーズ. 第3巻 検査結果の読み方，考え方. 微生物検査. メジカルビュー，pp220-225 東京，2006.			
4. 吉田 敦：サイトメガロウイルス抗体；エンドトキシン；β-D-グルカン [(1→3)-β-D-グルカン]			

5. 医学生のための基礎臨床技能 (ICM) シリーズ. 第3巻 検査結果の読み方, 考え方. 微生物検査, メジカルビュー, pp235-237, 2006.
6. 吉田 敦, 木村 哲, 家入蒼生夫:24.12 感染症. 垂井清一郎, 門脇 孝, 花房俊昭編, 最新 糖尿病学 ―基礎と臨床― 朝倉書店, pp617-623. 2006.
7. 吉田 敦:結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロング. 新 臨床検査項目辞典, 櫻林郁之介, 熊坂一成編, 医歯薬出版, 東京, pp 669-670, 2008.

## 【原 著】

欧文

1. Song J, Yoshida A, Yamamoto Y, Katano H, Hagihara K, Oka S, Kimura S, Yoshizaki K; Viral load of human herpesvirus 8 (HHV-8) in the circulatory blood cells correlates with clinical progression in a patient with HHV-8-associated solid lymphoma with AIDS-associated Kaposi's sarcoma. Leuk Lymphoma 45:2343-2347, 2004.
2. Misawa Y, Yoshida A, Saito R, Yoshida H, Okuzumi K, Ito N, Okada M, Moriya K, Koike K; Application of loop-mediated isothermal amplification technique to rapid and direct detection of methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) in blood cultures. J Infect Chemother 13: 134-140, 2007.
3. Imataka G, Miyamoto K, Fujiyama Y, Mitsui M, Yoshida A, Yamanouchi H, Arisaka O; Acute purulent meningitis associated with choronic subdral hematoma and subdral hygroma. Turk J Pediatr 49: 437-440, 2007.

和文

1. 茅野 崇, 岩井友美, 吉田 敦, 奥住捷子, 人見重美, 森屋恭爾, 木村 哲: ヒトサイトメガロウイルスを用いた過酢酸のウイルスゲノムに対する抑制効果の検討. 環境感染 19 : 441-446, 2004.
2. 茅野 崇, 鈴木理恵, 新谷良澄, 吉田 敦, 奥住捷子, 森屋恭爾, 木村 哲: アルコール擦式手指消毒薬の殺菌効果の検討. 環境感染 20 : 81-84, 2005.
3. 鈴木理恵, 木村 哲, 新谷良澄, 内田美保, 森澤雄司, 奥住捷子, 吉田 敦, 菅野谷幸恵, 森屋恭爾, 小池和彦: 安全装置付き翼状針導入による針刺しに対する効果. 感染症学雑誌 80 : 39-45. 2006.
4. 砂押克彦, 油橋宏美, 小林玲子, 山本芳尚, 奥住捷子, 吉田 敦, 三澤慶樹, 安達桂子, 生方公子: Streptococcus dysgalactiae subsp. Equisimilisの遺伝子解析によるemm型別と経口抗菌薬感受性. 感染症学雑誌 80 : 488-495. 2006.
5. 萱沼保伯, 奥住捷子, 吉田 敦: カルバペネム薬の適正使用に対するICT活動の効果. 環境感染 22 : 33-36. 2007.

## 【症例報告】

和文

1. 宋 健, 吉田 敦, 山本善彦, 岡 慎一, 木村 哲, 吉崎和幸: 急速なHHV-8 ウイルスの増殖と共にKaposi's sarcoma及びHHV-8 関連固形リンパ腫(HHV-8-associated solid lymphoma)を合併したAIDS患者の1例報告. Minophagen Medical Review 49 : 96-97, 2004.
2. 鈴木弘倫, 岡本友紀, 樽川友美, 柴田敏弘, 磯利佐子, 山本芳尚, 大内友二, 及川信次, 奥住捷子, 吉田 敦, 菱沼 昭, 家入蒼生夫: 脳膿瘍からNocardia farcinicaが分離された1症例. 臨床検査栃木 4 : 18-21, 2009.

## 【総 説】

和文

1. 吉田 敦, 稲松孝思: 混合感染としての肺炎球菌感染症と肺炎球菌ワクチン. 日本医師会雑誌 134: 1934-1938. 2006.
2. 吉田 敦: ESBLs (基質拡張型 $\beta$ -ラクタマーゼ) 産生菌感染症. 日本内科学会雑誌 96: 2470-75. 2007.
3. 吉田 敦: 常在菌の種類と役割. 日本臨床検査自動化学会誌 2008; 33: 314-317.
4. 吉田 敦: 感染症検査—最近の話題 サイトメガロウイルスの検査法. 臨床病理 56: 1034-1042, 2008.

## 【そ の 他】

和文

1. 吉田 敦監修: 2001-2002 経口抗菌薬感性率の地域特性を探る. 全国都道府県別薬剤感受性報告/栃木編. 第一製薬株式会社. 2003.
2. 吉田 敦, 崎尾秀彰: 新興・再興感染症と集中治療. 重症急性呼吸器症候群 (SARS). ICUとCCU 28: 103-109, 2004.
3. 吉田 敦: 要介護高齢者の感染症. 介護従事者の健康管理と感染症対策. Geriatric Medicine 42: 337-341, 2004.
4. 吉田 敦: 病院感染対策としての微生物検査 微生物検査の将来 診断から予防へ. Medical Technology 33: 1-4. 2005.
5. 吉田 敦: 標準予防策の実際 手指を介した接触が重要感染経路 適切な手指消毒で感染の予防を. GPnet 52: 23-28. 2005.
6. 吉田 敦: 高齢者に対する抗菌薬投与の注意点. Medical Practice 22: 2143-2145. 2005.
7. 吉田 敦: 抗ウイルス薬治療のポイント サイトメガロウイルス感染症. メビオ 23: 47-55, 2006.
8. 吉田 敦, 家入蒼生: 新興・再興感染症と臨床微生物検査. 臨床微生物学 (感染症学) に関する基礎知識 — 認定臨床微生物検査技師への道しるべ— 臨床病理Yearbook 2006. 特集第 134 号, pp39-44, 2006.
9. 吉田 敦: インフルエンザ (成人). 薬局 3 月増刊号. 病気と薬の説明ガイド 2006.
10. 吉田 敦, 岡本友紀, 樽川友美, 三澤慶樹, 吉田穂波: B群連鎖球菌感染症の臨床的・疫学的解析と抗菌薬の耐性機序に関する研究. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業) 「新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と診断・治療法に関する研究」分担研究報告書, pp35-40, 2007.
11. 吉田 敦. 救急疾患の診療の実際 感染症. 獨協医学会雑誌 34: 323-328, 2007.
12. 吉田 敦, 岡本友紀, 樽川友美, 三澤慶樹, 吉田穂波: B群連鎖球菌およびS. milleri group感染症の臨床疫学的特徴と薬剤耐性. 平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金 (新興・再興感染症研究事業) 「新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と診断・治療法に関する研究」分担研究報告書 2008:
13. 岡本友紀, 鈴木弘倫, 樽川友美, 山本芳尚, 大内友二, 及川信次, 奥住捷子, 吉田 敦, 小池宰子, 菱沼昭, 家入蒼生夫: キノロン耐性B群連鎖球菌の臨床的・疫学的特徴と耐性機序の解析. 臨床検査栃木 3: 54-57, 2008.
14. 樽川友美, 鈴木弘倫, 岡本友紀, 山本芳尚, 大内友二, 及川信次, 吉田 敦, 奥住捷子, 家入蒼生夫: 血液培養から分離された肺炎球菌の莢膜血清型と薬剤感受性および臨床背景の検討. 3: 50-53, 2008.
15. 鈴木弘倫, 岡本友紀, 樽川友美, 山本芳尚, 大内友二, 及川信次, 三澤慶樹, 吉田 敦, 菱沼 昭, 家入蒼生夫: Loop-mediated Isothermal Amplification (LAMP) 法によるClostridium difficileのtoxin B遺伝子検出の試み. 臨床検査栃木 3: 69-71, 2008.

16. 吉田 敦, 山本芳尚, 奥住捷子:ICUにおける感染のトピックス 血液培養の落とし穴. ICUとCCU 32:181-190, 2008.
17. 吉田 敦: 特集: 必携画像診断 Imaging Revolution, 腸管出血性大腸菌感染症. 内科 101, 1376-1379, 2008.
18. 吉田 敦: Streptococcus suis, Streptococcus dysgalactiae. 臨床と微生物 36:99-102, 2009.